慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	昭和三十九年度卒業論文題目
Sub Title	
Author	
Publisher	三田史学会
Publication year	1965
Jtitle	史学 (The historical science). Vol.38, No.1 (1965. 6) ,p.151- 152
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	彙報
Genre	
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19650600-0151

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

で胎内背面に弘長二年の墨書銘があるという。ほぼ定朝様式を示すが、高い肉髻、中下りの髪際、やゝ角ばった顔、形式化している衣文などは、鎌倉中期に定朝様式を学んだ関東仏師の造像を考えしめるものであり、興味深く見学した。台座・光背・脇侍は別個のものの集合であろうか。雨雲は未だに去らず夕暮をはやめている、急いで北浦和駅へ出て解散。

（細川泰子）

昭和三十九年度卒業論文題目

国史　専攻

小幡真知子　縄文後・晩期における銛の研究
——特に東北地方出土の資料を中心として——

山田　武子　飛鳥・白鳳美術の史的研究序説

纐纈　礼子　定朝様式の成立について

古館　博　陸奥産金考——平泉藤原氏時代を中心として

坂口　啓子　世阿弥の義満同朋衆説について

太田　敏子　一休宗純——狂雲集を中心に

佐藤　友美　紹鷗の茶の湯

桑田　二郎　山城国一揆崩壊の必然性——大和国人の動向を捉えて——

北原　将江　甲斐武田氏の戦国大名としての確立の時期について

鈴木　昭子　島原一揆の原動力

冨田　功　江戸時代における関東の貫高制

横倉　啓子　文久三年八月十八日の政変前後の会津藩の動向

菅　祥三　豊臣氏滅亡の原因に関する一考察

土肥美紀子　家康の譜代家臣政策——領地配分について——

市川　和江　享保改革における勘定所機構を中心とした経済政策

浜田　理弘　島津斉彬の財政政策

中島　正夫　薩藩天保の改革における二・三の問題

新井　幸子　将軍継嗣問題と条約勅許問題——堀田正睦を中心として——

保坂　常隆　井伊直弼の開国論についての一考察

手塚　紀子　伊達宗城の国史周旋に関する研究

林　一身　第一回長州追討と吉川経幹

小嶋　由紀　慶応三年における四藩会議の性格について

田中　武徳　幕末における勝海舟

西谷　光夫　平野国臣の一研究

浅野　澄子　先収会社の研究——地租改正における米穀の商品化に関連して——

東洋史専攻

大田　浩正　アラビア独立運動とハシム家

高山由紀子　韓非子——儒教政治批判について——

川橋　啓一　ロシア留学生派時代について

根岸　俊子　中世インドのイスラム女性の地位

笠原　弘子　ジャ・ゲカルプに関する一考察
松田　義郎　インドネシアにおける慣習的土地法と植民地政策
佐藤恵美子　古代印度に於ける女性の位置――ヴェーダ文学を中心として――
見方　克己　中国の火葬について
高橋　昭雄　考古学資料からみた中国に於ける鉄使用の起源に関する一考察
福原　隆史　李朝陶磁器に関する一考察
籠山　鞠子　長江流域教案――無湖、丹陽、武穴、無錫、宜昌を中心として――
芹沢　駿吉　アル・マーワルディーのイマーム論――その歴史的意義――
西洋史専攻
青柳理恵子　アメリカ大恐慌と福祉国家べの転換。
藤原　浩子　米国のドル外交による中国政策
長谷川秋子　レヴェラーズ運動の性格についての一考察――「第一人民協約」の成立とパトニー会議に関して――
針ケ谷慶子　植民地時代のマサチューセッツ商人の動向
服部起代子　十七世紀前半におけるイギリスの社会と宗教――ウィリアム・ロードを中心として――
林　純子　ディズレリーの東方政策とベルリン会議。
樋口　保　ミシシッピー州におけるジャクソニアン・デモクラシー。
広松　陽子　第一次大戦期におけるイギリスの対アラブ外交――特にシャリフ・フサインとの関係について――
伊藤　弥生　英国におけるメソディスト運動の社会思想史的意義
稲垣　文代　第二次大戦期フランス・レジスタンスの性格。
一瀬夫美子　パーマーストンの東方政策。
葛西　進司　ゼンガー事件――言論自由の獲得闘争――
笠原　明徳　モンロー主義とベネズエラ国境問題。
河原　伸吉　ニューディール政策時代の農務局の動向について。
小泉　瞳　二十世紀前葉アメリカ産業発展史上におけるヘンリー・フォード。
神津　孝子　トーマス・モア――「ユートピア」の時代史的意義――
栗山　功二　イギリスの海外貿易の発展における奴隷貿易の意義。
日下　孜子　十九世紀末アメリカにおけるトラスト形成問題――スタンダード石油会社を中心として――
牧野　洋子　イギリス革命におけるプロテクトレートとピューリタニズム。
松原　雅子　ジョージアにおける米作プランテーション（1830―1860）
松森　国見　鉄道史におけるユンカーとブルジョワジー。
三松　恭子　アレクシス・ド・トックヴィルの「アメリカ・デモクラシー論」に関する一考察。
宮子　瑞代　新移民に関する研究。